



小中学生版  
Vol.9

発行所 〒329-0101  
栃木県下都賀郡野木町大学友沼5840-7  
野木町社会福祉協議会

みんなで考える福祉教育

# 地域福祉新聞

野木町社会福祉協議会では、平成23年度から平成25年度までの3年間、栃木県社会福祉協議会の指定を受け、町内の小中学校7校の協力を得て「小地域で考える福祉教育推進モデル事業」を進めてきました。小中学校の児童・生徒を対象に福祉に対する興味・関心を高め参加する姿勢を育てる環境作りを学校と地域が共に作っていくことを目的に、サマースクールの開催や福祉教育授業に協力しています。

ここでは、平成25年度に行われた各協力校の事業を紹介するとともに、参加した生徒の感想文を掲載いたしました。様々な体験をとおして得た感動や発見を、自分のより身近なものとして捉え、家族や地域の中で自分にできる何かに気付く心を、この文章の中に見つけていただければ幸いです。

また、日頃より福祉教育に協力していただいているボランティアの方々の、ボランティアの立場からの感想や、社会福祉協議会で開催した講座の様子も掲載いたしました。

地域福祉新聞をきっかけとして、身近な方々と福祉について話し合ってみてください。



連絡会議の様子

## 福祉新聞 ～目次～

- 友沼小学校 ..... P 2
- 野木小学校 ..... P 3
- 佐川野小学校 ..... P 4
- 南赤塚小学校 ..... P 5
- 新橋小学校 ..... P 6
- 野木中学校 ..... P 7
- 野木第二中学校 ..... P 8
- 協力ボランティア ..... P 9
- 夏の思い出 ..... P10

～ボラサマ、小学生チャレンジ

One day V～



友沼小学校では、4年生が、総合的な学習の時間で福祉の学習をしています。アイマスクや車いす、高齢者疑似体験などを実施しました。点字会「のぎ」や手話サークル「虹の会」、「野和の会」の方に来ていただき、点字を打ったり、手話を教わったりもしました。目や耳が不自由な方から、直接お話を聞くことができ、その大変さを知ること、一人一人が自分にできることなどを考えるきっかけとなりました。

## ☆アイマスク体験☆

4年・秋山 瑞樹

アイマスクをつけると、どこに物があるのかわからなくて、こわかったです。目が見える人の、声かけが大事だと思いました。

## ☆車いす体験☆

4年・江連香乃花

車いすに乗った時、段差がとてもこわかったです。これからは、車いすに乗っている人を見かけたら、いつも助けてあげたいです。

## ☆高齢者疑似体験☆

4年・山本 珠菜

重りをつけて階段を上るのがとても大変でした。手も重くて、豆をつかむのが難しかったので、高齢者の大変さがよく分かりました。

## ☆手話体験☆

4年・林 真優

手話は覚えるのにたくさんの時間がかかり、口話も読み取るのがとても難しいと思いました。虹の会の方たちが、「耳の不自由な人を見つけたら声をかけて下さい。」と言っていたので、これからは、習った手話で話したいです。

4年・大西 萌恵

耳が不自由な人は、電話が自由にできないし、生活の中で大変なことがいろいろあることが分かりました。これからは、耳の不自由な人を見かけたら、自分から手話などで話しかけたいです。

4年・新井 大騎

手話は耳の不自由な人や話すことが不自由な人にとって、とても大事で大切なんだと思いました。手話をもっともっと覚えて、手話で会話できるようになりたいです。

4年・岩間 楓汰

耳が不自由な人は、こんな難しい手話を覚えているからすごいと思いました。ぼくの友達で、耳が少し不自由な友達がいるので、手話を覚えて、手話と一緒にいろいろ話せるようになりたいです。

## ☆点字体験☆

4年・谷中 啓介

生まれながら目が不自由ということは、本当に大変なことだと思いました。1人では、自由に出かけられないし、景色なども見ることはできません。医学が進んで、目の不自由な方の目を治すことができたらいいなと思いました。

4年・瀬下 晴叶

ぼくは目が不自由な人からいろいろな話を聞いて、コンビニでは出口が分からなくて大変なことや、駅では駅員さんに手伝ってもらおうことなどを知り、大変なことがたくさんあることが分かりました。

4年・椎名 結唯

目が不自由では、こわいことがいっぱいあることを知りました。今度、目が不自由な人がいたら、電車の座席をゆずったり、声をかけたりしたいです。

4年・阿部 桃己

私は、目の不自由な方が話してくださったことや点字体験でいろいろなことが分かりました。点字を打つのは大変で、時間がかかるので、もう少し使いやすく便利なものができてほしいと思いました。



アイマスク体験



車いすでカーブに挑戦



高齢者疑似体験



みんなで手話ソング♪



楽しく手話を学びました☆



打った点字を読んでもらいました



ていねいに打ちました

野木小学校では、4年生の総合的な学習の時間に「ひとにやさしいことって」をテーマに、社会福祉協議会の協力を得て、手話・点字体験を行いました。手話体験では、実際に耳の不自由な方に手話を教えていただくなどの触れ合いをとおして、自分たちにできることは何かを考えるきっかけにすることができました。その後、「こもれびの舎」を訪問してお年寄りの方々と触れ合いを実践することができました。今回は、これらの体験活動から子どもたちが感じたり考えたりしたことを紹介いたします。

## 4年・松本 幸大

僕は、初めて手話をやりました。教えていただいて、自分の名前や家族のことを手話で伝えることができました。耳の不自由な方で週に3回も手話サークルに通って話をするのを聞いて、みんなで手話をするのが楽しんだなと思いました。

## 4年・山崎 愛美

私は、耳が不自由な方とお会いして、大声で名前を呼んでも本当に聞こえないことが分かりました。でも、肩をとんとんと軽くたたいて、目を合わせるとお話できることが分かりました。

## 4年・杉瀬 海人

僕は、耳が聞こえないと言うことがどういうことかを知りました。それは、最初に名前を呼んでも返事をしなかったからです。4年生みんなで大きな声でいくら呼んでも全然聞こえない様子でした。僕は少しは聞こえると思っていました。手話は大切だと思いました。

## 4年・船橋 風人

僕は、耳の不自由な方は手話だけで話をしていると思っていたけれど、相手の口を見て、聞き取ることができることも知りました。耳の不自由な方で、楽しみは手話サークルで会話することだとおっしゃっていました。手話があまりできなくても思い切って話してみようと思いました。



千羽づるをプレゼント☆



リコーダーの演奏を披露しました

## 4年・中山 涼雅

こもれびの舎では、最初に歌とリコーダーの発表をしました。次に、おばあちゃんたちとゲームをしました。最初に、おばあちゃんたち一人一人と自己紹介などをしてお話しをすることができました。やさしく接することができました。これからもお年よりにやさしくしていきたいです。

## 4年・小川みなみ

お年よりと一緒にゲームをやりました。トイレトペーパーをうちわであおいだり、万歩計をふったりするゲームです。みんな一生けんめいで楽しかったです。その後、私はおばあちゃんの肩もみをしました。もっと人にやさしいことができるようになります。

## 4年・須藤 大地

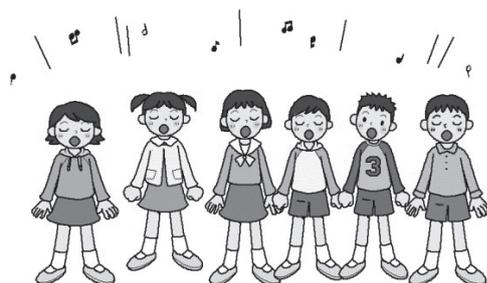
こもれびの舎では、みんなで協力して作った千羽づるをプレゼントしました。その後、お年よりとゲームをしました。お年よりに優しくでき、楽しんでもらえたなと思いました。これからもずっと元気で長生きしてほしいなと思いました。



まずはあいさつしてみよう！



点字で自己紹介文を打ちました



佐川野小学校では、4年生の総合的な学習の時間に福祉の学習をしています。  
「車いす体験」「高齢者疑似体験」「アイマスク体験」「点字体験」「手話体験」などの経験から、みんなにとって「住みやすい町」とはどういう町なのか、一人一人テーマを決めて学習を進めています。

## ☆車いす体験☆

4年・佐藤凜汰朗

車いすをおす時、カラーコーンに友達のをぶつけてしまいました。ぼくが乗ると、だんさでガタンとゆれて落ちそうでこわかったです。ぼくは、車いすに乗っていると大変なので手伝ってあげたいと思いました。おじいちゃんおばあちゃんのために、「高齢の方が幸せで建物が使いやすい町」にしたいと思いました。

4年・保坂 竜二

スロープがない時は、車いすの後ろを足で押して前のタイヤを持ち上げてのりこえることが分かりました。車いすはどんな所でもかたんに行けると思っていたけれど、だんさがあると大変なんだと思いました。ぼくは体験して「体の不自由な方も安心して移動することができる町」にしたいと思いました。

## ☆高齢者疑似体験☆

4年・小山 夏鈴

高齢の方は足を持ち上げることがむずかしく、階段を上るのが大変なことが分かりました。お皿に入れた豆をはしで移す時には、目が見えにくくて苦労していることにも気づきました。私は、「高齢の方もかいてきにくらせる町」にしたいと思いました。



車いすで段差を  
超えられるか  
な？



階段を下りるの  
って怖いな

## ☆点字体験☆

4年・老沼 里咲

色々な国に点字があることを初めて知りました。打ちまちがえたら、うらがえしにして出ている所を平らにするのが大変でしたが、楽しかったのもっと点字をおぼえたいです。私は、「みんなが仲よく親切で、目の不自由な方も安心して歩くことができる町」になるように学習しています。



手話で自己紹介！  
伝わるかな？

## ☆アイマスク体験☆

4年・日向野朱梨

目が見えないと少しの段差でもすごくこわいことが分かりました。階段は、下の方がこわかったです。となりに人がいてくれると安心することも分かりました。私は「一人一人が助け合って、目の不自由な方も安心して歩くことができる町」を目指して学習しています。

集中して点字に  
取り組んでいます



白杖で確かめな  
がら上ります

## ☆手話体験☆

4年・平野 彩香

あいさつの仕方や年れいの伝え方を手話で教えてもらいました。耳の不自由な方の前で自己しょうかいをして、伝わったのがうれしかったです。私は、手話をおぼえているいろいろな人と話したり、できることはお手伝いしたりしたいと思いました。「耳の不自由な方や町の人がお互いに助け合って楽しくくらせる町」にしたいと思いました。

4年・木村 一星

初めてで手の動きをおぼえるのがむずかしかったけれど、自己しょうかいができてうれしかったです。手話の他に、話している人の口の形を見ることも教えてもらいました。口を大きく開けないと伝わらないんだなと思いました。ぼくは「耳の不自由な方も家の中や外で不自由なくくらせる町」になるとよいと思って調べています。

1、2年生の生活科「むかし遊びの会」では、地域在住の高齢者の方々との交流を通じ、お年寄りの優しさに触れ、感謝や尊敬の心を持つことができました。

また、環境・福祉委員会では、年間を通して全校生にアルミ缶回収を呼びかけ、ユニセフ募金に協力しています。

今後も豊かな体験活動、交流活動を通して、自分たちにできることを考え、主体的に社会に関わっていきける態度の育成に努めていきたいと考えています。



お年寄りの方とむかし遊びを楽しみました

南赤塚小学校では、夏休みに開催された「小学生チャレンジスクール」にたくさんの児童が参加しました。その体験での子どもたちの感想を一部紹介します。また、5年生は総合的な学習の時間に福祉の学習を行っています。その一環で福祉についての講話を聞きました。福祉について話を聞くことにより、自分たちにできる福祉について考え、実践しました。

## ★5年生の福祉学習★

5年生は、総合的な学習の時間に、「みんなにやさしい街づくり」の学習として、福祉についての講話を聞き、その後に点字・手話の体験活動を行いました。実際に目の不自由な人や耳の聞こえない人の話を聞くことにより、自分たちにできることは何か考えるきっかけになりました。また、点字や手話を体験することにより、コミュニケーションの方法を知ることができました。



\*福祉についてのお話を聞きました\*



\*点字を打ちました\*



\*手話を覚えました\*

## ★小学生チャレンジスクールの感想★

### 4年・寺野 航生

車いすに乗るなど障がい者の体験ができて、大変なことがわかりました。体の不自由な人に手をかそうと思いました。

### 5年・青木 佑果

野木町のいろいろな学校の人たちと仲良くなれました。朗読では、目の不自由な人にカセットテープで送るなんて初めて知りました。

### 5年・大島 千穂

ハンディキャップ体験では、目が見えなかったり、足が不自由だったりする人の体験をしました。少し不安な体験だったけど、良い体験になりました。

### 6年・新妻 蘭佳

目が見えない体験は怖かったです。もし道で障がい者の方に出たら、声をかけようと思いました。

### 6年・柳田 真緒

車いすバスケットボールを体験して、足の不自由な人はとても大変だと実感しました。自分ができることをしていきたいです。



\*他にも本校では、ペットボトルキャップの回収を行っています。ペットボトルのキャップ約430個で10円のワクチン代ができます。ポリオワクチンは1人分20円なので、20円で1人の子どもの命が救えます。世界の子どものために、子どもたちの力でできることを少しずつ取り組んでいます。



新橋小学校では、人権週間の講話として教育長の中野晴永先生からお話を聞きました。

ちびまるちゃんを例にして思いやり・やさしさの大切さを分かりやすく教えてくださいました。



1年・植松 愛蘭

中野先生のお話を聞いて、みんながいいクラスをつくりたいっておもいました。じぶんがされていやなことは、いったり、やったりしてはだめです。これからもお友だちをたくさんつくりたいから、いじめはしません。

1年・大塚 心優

ともだちをたずけるためや、いじめをしないための大せつなべんきょうができました。みんなちがってみんないということばは、とてもすてきで、すきになりました。これからもともだちとなかよくしていきたいです。

1年・小倉 上知

お話を聞いて、これからどうすればよいかがよくわかりました。きょうしつをあかるくげんきにしたいです。だから、じぶんもみんなをいじめないでやさしくしたいです。

2年・吹上知愛里

わたしは、人けんの話をして聞いて、いじめられている人がいたら助けようと思いました。今までだれかがわるい口を言われても助けてあげられませんでした。これからは、どんな人にもやさしくしてあげたいと思いました。

2年・峯 颯花

わたしは、いじめをされたことはありませんが、いじめをされたときは、どれだけかなしい思いをするかわかりました。いじめをされた人がなくなるので、いじめがない学校にしたいと思いました。

2年・清水 祐希

分からないことを知ることができました。人がいやがることばや人のひみつとかわる口をいっちゃだめというのがわかりました。みんなでなかのいいクラスを作りたいです。いいお話を聞いてよかったです。

3年・岡安 ユミ

わたしは、はじめていじめの話を考えました。ひみつを話すこと、はじをかかせること、相手がいやな言葉を使うこと、いじ悪を見て見ぬふりすること、全部よくないとわかりました。みんなを助け合っていきたいです。

3年・飯島 愛結

人けん集会のお話を聞いて、わたしが一番心にのこった言葉は、「よわい人をいじめてはならぬ。」という言葉です。わたしはこの言葉をわすれずに、よりよい学校にしたいと思います。まずはあいさつを元気にしたいです。

3年・鈴木 航

ぼくは、体育館で聞いた中野先生の人けんにかんするお話の中で、みんなそれぞれせいかくやとくちょうがあって、みんながにが手なところをとくいな人がたすけているというお話がとても心にのこりました。

4年・蓬田 周

一人一人に持ちょうがあることや、あだなを言われて平気な人もいやな人もいることを知り、人にやさしくせつしたいと思いました。ぼくは、自分のことばかりでなく、相手のことを考えられる人になりたいです。

4年・三浦 由衣

私は、弱い人をいじめるのは強い人だと思っていたけれど、本当はいじめる人は強い人じゃないことが、人権集会のお話でよくわかりました。このことが、心に残りました。人のいやがることはしないようにしたいです。



中野先生のお話を聞きました

5年・梶田 麗斗

みんなで仲良くまとまったクラスを作ること。上級生は下級生を助けること。自分のよさも引き出せる、明るいあいさつをすること。ぼくはどれも自分のためでもあり、みんなのためでもあることだと思いました。

5年・三串 周平

人権集会での話を聞いて、人権とは日々の何気ない友達とのかかわりから生まれると思った。よいクラスにするためにも、これから自分の友達とのかかわりを大切にしていきたい。



心に残る話をありがとうございました

6年・松本 真夏

私は人権についてよく分かっていたつもりでしたが、見落とししていた所がありました。人権を守るといふ事は、いじめをなくすことだけではなく、あいさつをする、下級生にやさしくするなど、基本的な事なのだと思います。

6年・藤田 賀音

今日のお話を聞いて、短所や欠点は長所にもとれるんだと思いました。私は今まで自分の欠点だと思っている部分を悩んでいましたが、それが長所にも思えてきました。これからは個性と考へ、前向きに生活していきたいです。



皆たくさんの学びがありました

野木中学校では、福祉委員会を中心に、ほぼ毎月ごとに古紙・アルミ缶回収を実施しています。文化祭では、地域のお年寄りと交流を深めたり、生徒会で町の重要文化財に指定されている煉瓦窯の改修工事に伴う募金活動を実施したりしました。また、文化祭で発表した和太鼓の演奏を虹の舎でも演奏するなど、様々な活動を通して地域に根ざした活動を行うことができたと思います。

## 《古紙回収》

3年・落合孝太郎

私たち福祉委員の主な仕事は、古紙・アルミ缶回収です。年間を通して、毎月2日間にわたって行っています。毎月、生徒や先生方のおかげで、たくさんの古紙とアルミ缶が集まります。そして、それらを換金し、学校のために使っています。しかし、1学期は私もしっかりと委員会をまとめることができず、回収量も昨年に比べ減ってしまいました。その原因は「意識」にあると思いました。今までの私たちは、目的もなくたくさん集まれば良いという気持ちで活動していましたが、2学期からは、学校の役に立ちたいという明確な目的をもって活動しました。特に、呼びかけに力を入れました。1学期よりも多くの生徒や先生方に印象強く呼びかけるように努めた結果、協力してくれる人が徐々に増え、達成率が80%を超えるクラスも増えてきました。そして、2学期の回収量は昨年を上回ることができました。私は、福祉委員会での活動を通して、資源の大切さ、奉仕する心を学ぶことができました。来年度は今年度を上回るような委員会になってほしいと願います。



回収量も増えてきました

## 《文化祭・高齢者招待》

1年・印出 大祐

僕は、イベント講座で、文化祭当日に地域のお年寄りの方々とグラウンドゴルフをする予定でした。しかし、当日はあいにくの雨で中止となってしまいました。その代わりに、高齢者の方の休憩所で、お茶を出したりお話をしたりする、接待を行いました。

雨の中来校してくださったお客さんを、係のみんな総出でお迎えしました。僕は、お茶をお出しし、積極的にお話しするよう頑張りました。1人のおばあさんが、吹奏楽部の発表を見に来たというので、僕は体育館まで案内しました。おばあさんはとても嬉しそうに「ありがとう」と言ってくれ、僕はとても嬉しく、気持ちよかったです。

本当の予定のグラウンドゴルフはできなくて残念だったのですが、高齢者接待という貴重な体験をして、また一歩成長したと思いました。天気は雨でも、とてもよい一日でした。

## 《虹の舎・和太鼓》

3年・永田明白香

私は、3年間和太鼓講座を選択し、活動してきました。ですが、今までの校内での演奏とは違い、「虹の舎」で行われる収穫祭という新たな場所で演奏することに、楽しみもあり、少し不安もありました。その日のために、今まで以上の最高の演奏をしようと決意し、必死に練習を積み重ねました。その結果、施設の方々や観客の方々の温かい声援や拍手をいただき、無事に演奏を成功させることができました。「山彦」「天地」「八丈」という3曲を演奏しました。どの曲も、悔いが残らない楽しい演奏ができて、とてもよかったと思います。

最後に、3年間の和太鼓講座の活動を通して、見てくれた方々に感動を与えることができ、自分にも自信がもてました。やはり、一つのことに集中しやり遂げることで、自分を成長させることができるということを実感しました。



皆で揃いのほっぴで披露しました



迫力のある演奏！

## 《募金活動》

3年・宮崎比菜乃

今年も私たち野木中生徒会は、野木町の貴重な文化財であるホフマンれんが窯の補修工事のための募金活動を行いました。今年は、合唱コンクールと文化祭の2回募金活動を行いました。合唱コンクールでは、見に来てくださった方々が帰る時間に合わせ、私たちが直接呼びかけをしながらの募金活動を行いました。文化祭では、講座や他の仕事があり、呼びかけながらの募金活動はできませんでしたが、2回の募金活動の結果、昨年よりも多くの募金を集めることができました。合唱コンクールでの経験を通して、私たちが直接、人と触れ合いながら行う募金活動がどれほど効果的なことなのかを改めて知りました。また、直接募金活動を行うことで自然と笑顔になれるということにも気づきました。

今年は、2回の募金活動しかできませんでしたが、来年は、より多くの場面で、より多くの募金が集められるように頑張りたいと思います。

## 野木第二 中学校

野木第二中学校では、6月の「ひまわり荘」訪問で、お年寄りの方と一緒に七夕の飾りつけを楽しむことができました。また、One dayボランティアスクールでは、野木町にあるセルフ花を見学し活動をしてきました。このことは、貴重な体験となり、今後の生活にいかしていきたいと思います。



七夕飾りのお手伝い

### ひまわり荘を訪問して

3年・山西美沙希

私は6月28日に、ひまわり荘を訪問してきました。この日の仕事は七夕飾りだったのですが、お年寄りの方と一緒に世間話をしながら楽しく出来ました。これからお年寄りが増えてくる時代になりますが、そういう時こそ私達若者ももっと関わっていく必要があると感じました。貴重な体験をありがとうございました。

### One dayボランティアスクールに参加して

2年・須見 日向

私は、今回の体験学習で、生まれて初めて障がいをもった方と接しました。そして、この学習を通して、私の、障がいをもった方に対する考え方が変わりました。

特に印象に残っていることは、彼らがとても明るかったということです。一緒に活動をした時に、私たちに作業の手順を優しく、丁寧に、一生懸命に教えてくださいました。その様子は生き生きとしており、とても障がいがあるようには思えず、みんな仕事を楽しんでいるように感じました。初めは少し緊張していた私も、思わず笑顔になり、すぐに打ち解けることができました。

また、初めて知ったことは、障がいをもった方たちも自分で働いてお金をもらい、そのお金を使って生活しているということです。セルフ花では、どの方も普通の人と同じように生活しており、「障がい」という面を除けば、私たちと何ら変わらないことに気付かされました。

今までは、障がいをもっている方たちに対して、どこか違った見方をしている自分がいました。しかし、それはまったく間違っていることに気がきました。私は、考えを変える機会を与えてくれた今回の学習に感謝するとともに、これからはどんな人に対しても同じように接していける人になりたいと思います。

2年・町田七奈子

私は今回の体験学習を通して、考えさせられることがたくさんありました。その中のいくつかを述べたいと思います。

まずひとつは、障がいのある方は明るい人が多いということです。作業をしている時に、お互いに質問をし合ったり、また、社員の方の話と一緒に笑ったりしました。そして、昼食の頃にはすっかり打ち解けて、皆で大笑いしていました。緊張なんてすっかり吹き飛ばしてしまい、とても居心地のよい空間となり、おかげで一日気兼ねなく過ごせました。

もうひとつは、ボランティア活動は楽しいということです。初対面の方たちと一緒にうまく活動できるだろうかなどと、最初はとても不安でした。しかし、それは杞憂であり、活動は楽しく、やりがいのあるものでした。「私が手を動かすことで誰かの役に立てるのだ」と考えるだけでやる気が起きました。本当に楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

私はこの一日を振り返って、本当に貴重な体験ができたことをうれしく思います。班別での活動のほか、ミュージックケアや施設見学、利用者の方との対談など、皆で一緒になって楽しく活動するだけでなく、ためになるお話もたくさん伺うことができました。今後、どこかでセルフ花で出会った人たちと再会できることを楽しみにしています。

その時は、また楽しく言葉を交わしたいと思います。



作業中は会話も弾みませ



衣類たたみをしました

2年・南東 瑞貴

初めてボランティア学習に参加することになった時、心の中は不安でいっぱいだった。どんな方とどんな活動をするのか、不安ばかりが先立った。しかし、その活動の中にもボランティアに対する好奇心があった。貴重な体験ができる喜び。その喜びが湧き上がった時、始まる前から考えても仕方がない、まずは思い切ってやるのが大切だと考えた。

当日の朝、学校で一緒に行く友人と話していて、皆考えていることは同じだと気付いた。いつしか不安は消えていた。そしていよいよ到着。体験内容の説明を受けた時、頑張るってやり遂げようと思った。最初はやはり難しく、不慣れな手付きで作業していたが、作業のスピードも上がってきた。我ながらよくできたと思った。

午後は、施設内のいろいろなところを見学した。様々な仕事があり、たくさんの人たちが働いていた。このセルフ花では350人もの方が働きに来ているという。皆仕事を一生懸命頑張っていた。次ホーム宙に向かった。30人ほどの人がここに住み、働いているのだという。そして、グループホームである乙女座に行った。共同生活している場ということで、きれいに使われていた。

最後に、セルフ花で作られているクッキーをいただきながら質問をした。いろいろなことが分かり嬉しかった。また、クッキーはとてもおいしく、最高だった。

非力ではあるが、他の人のために自分が役にたつてると実感できることはこれからの自身にもつながる。今後もこのような機会があったらぜひ参加してみたい。



美味しかったクッキー

## 手話サークル野和の会

私たちのサークルでは、ボランティアの一貫として毎年町内の小学校を訪問して、ろう者との体験学習を行っています。子どもたちが純粋な目を輝かせながら、手話を表している姿、また覚えの早さには感動してしまいます。

「手話」とは、耳の聴こえない人たちにとって重要な言葉なのです。耳が聴こえないという事は、日常茶飯事におかれましても、会話の重要さが創造を絶する事と思います。

もし、皆様の近くで耳の聴こえない人に気付いた時、私たちに出来る事とは…？耳で聴く代わりに、目で見て、声の代わりに手を動かして会話するのが手話なのです。

地域の皆様に少しでも関心を持っていただけることを願いつつ、またひとりでも多くの方々に手話を覚えていただきたい。そんな思いでサークル活動を続けています。



## 点友会「のぎ」

三輪 傑

野木第二中学校で点字学習が毎年秋に行われております。実際に点字を利用する視覚障がい者として、今年も点友会の方々とともに参加させていただきました。

私の担当は、皆さんが書いた点字を指で触って読むことです。まず最初に点友会の方々から点字についての指導があります。その後皆さんが自分の名前や例題の詩を点字で書いて、それを私が読み上げます。すると、お互いに通じ合えたような感覚になれてとても嬉しいです。残暑の中ではありますが、生徒の皆さんや教職員、そして点友会の方々とともに学習できることは、とてもありがたいです。

毎回終了後は、皆さんから力をいただいた気持ちになり、参加させていただいて本当に良かったと思っております。

このような機会から、点字を通じて視覚障がい者への理解がさらに深まっていくことを願っております。今後ともよろしくお願いいたします。



## 朗読の会「のぎく」

小川登喜子

小学生達に朗読ボランティアを体験してもらった。

朗読ボランティアってなーに？

それはね、生まれつきや病気などで目が見えなくなった人に、お知らせや本等を声に出して伝える音訳ボランティアの事なのよ。ただ文字を声に出して読むだけでなく、お知らせはわかりやすく正しく伝わるように読む。

物語などは、聞いている人が場面を想像出来るように表現して読む。簡単なようで実際やってみると案外難しい。どんなふうにも読めば相手にちゃんと伝わるのか「天ぶらピリピリ」という詩を朗読して学習した。短い時間だったが録音まで完成させた。録音したのを聞いてみると本当においしそうなたぶらが揚がる様子が表現出来ていた。

みんな良くがんばったね～



# この夏、社会福祉協議会で開催した ボランティアサマースクール、小学生チャレンジスクール One dayボランティアスクールの様子を紹介します



**ボランティアサマースクール**  
～4日間～

**小学生チャレンジスクール**  
～4日間～

7月29日

ハンディキャップ体験と福祉講座



まずは  
手話で挨拶



7月30日

2日間の施設交流活動  
新橋児童館  
社会福祉法人パステル  
特別養護老人ホーム 虹の舎



一緒に遊ぼう☆

サロンのおもちゃづくりとハンディキャップ体験



豆つかみは  
難しいね!

7月31日

車椅子バスケットボール体験と盲導犬歩行体験



ドキドキの  
盲導犬歩行

8月1日

合同プログラム(世代間交流)  
ものづくり講座と  
流しそうめんバーベキュー



器も手作り  
しました

福祉講座とオリジナルの赤い羽根づくり



上手に朗読  
できました☆

8月2日

合同プログラム(世代間交流)  
ものづくり講座と  
流しそうめんバーベキュー



皆で  
ハイチーズ♪

**One day ボランティアスクール** 社会福祉法人パステルにて施設交流活動

8月9日



利用者と  
交流しながら作業しました



ミュージックケアに  
参加しました